

米山奨学生レポート

2000年6月

(提出期限6月30日)

記入月日 2000年6月15日

奨学生番号: A0862	氏名: 曾芳代	国籍: 台湾
大学・課程・在学年:	神戸大学 経営学研究科博士後期課程	3年
専攻分野: 人的資源管理	指導教員: 奥村康司	
世話クラブ: 明石地 ロータリークラブ	カウンセラー: 下村恵造	

【学業の進捗】(具体的に本人が記入)

今年の目標は、日台間における時短調査を終え、調査結果を博士論文としてまとめ上げることです。6月の今、台湾企業への依頼が終え、日本企業への協力を求めているところです。目標として、7月と8月を日台調査に費やすつもりです。進捗状況と云えば、博論の中間に入るところです。

*奨学会に知っておいてもらいたいこと(ある場合のみ記入)

日本企業への協力要請において、世話クラブの明石地ロータリークラブの皆様から大いに助けられています。心より感謝しております。表彰して下さい。

【カウンセラーの所見】

カウンセラー記入日: 2000年6月15日

署名: 下村恵造

ファンちゃんのカウンセラーを担当して1年が過ぎましたが、彼女の前向きな勉学姿勢は変わっていません。と言うより益々磨きがかかってきました(^-^)/
私は地区の国際青少年交換委員長も兼務している為に多忙な毎日ですが今回も6月レポートの事は恥ずかしながらすっかり忘れていましたが、何時も報告しています様に今回も忘れる事なく自分から期日通り提出してくれました(^-^)/
レポートにも「さび」に付いて書いていますが、私達日本人でもなかなか感じ取る事の出来ない事を色々実感している様で驚いています(@@) この調子なら彼女の持っている「偏見」も少しずつ解消されていく事でしょう。私も30数年前に実感した事ですが、「文化は見た目だけでは解らないものであり、一緒に生活し、その中にとけ込んで初めて解ってくる」と言う風に締めくくっているのも嬉しい事です(^-^)/
しかし、文化だけでなく日本人に対しても少なからず偏見があるとすれば?と思うと残された僅かなカウンセラー期間、私の任務は大変だなあ~と思い新たに致しました。
ファンちゃんは米山記念奨学会やロータリーの目指すところも既に彼女なりに理解出来ているしファンちゃんなら相手にとって不足なし~!お父さんも精一杯頑張るぞ~(^-^)/

*テーマは次の4つのうち、1つを選んで下さい。(6月と12月は違うテーマを選んで下さい。)

1. 研究・学業について 2. 日本での生活文化 3. ロータリアンとの交流 4. その他(自由テーマ)

日本での生活文化

来日前、日本は私にとって、未知な遠い国ではありませんでした。人種的な特徴の一致と、米食文化、中華文化に強く影響されていた歴史的な理由から、私は自分が未知な文化に触れるという知的好奇心がなのまま、日本の地を踏み出しました。そして、来日5年にして、当時の自分の誤りを知りました。

私が最初に意識したのは、日本の日常生活の中に土着なく浸透されている美意識です。一般家庭の中に出されている和食は、いつも多くのきれいな器の中に入って、食卓に運ばれています。女性として、この演出を支える過重なお家事労働に心配しながらも、私はその中から頂く料理に格別な美味さを感じました。街を彩る小さな花壇の中には、いつも季節感を感じさせるお花が咲いています。狭い台湾、しかも都市育ちの私にとって、街中を飾る自然はたとえそれが人工的な演出であっても、この上ない心を和ませる存在です。中でも、一番好きなのは、階段の隙間や電信柱の傍に咲く、一輪のお花です。日本で、自然がまだ生えています。

日本庭園に潜む独自の美世界も来日して始めて発見しました。日本文化に対する歴史的な偏見から、私は日本庭園を中国庭園の亜流として思い込んでいました。そして、三千院の中で、私は身を疎まほひの体験をしました。目を閉じて、庭園との一体化を試みる私に、巨大な身寄りないの虚無が襲ってきました。その圧倒的な恐怖感に、私は圧倒されました。そして、ひょっとして、それが自分の「土俗」の初体験かも知れないと気付いたのは、ずっと後のことでした。

中国庭園から、一体化をする時に、心に充満するものは、「無」ではなく、「有」のはずです。私は、萬物の溢んばかりの生氣に触れることを期待していました。そして、いい意味で裏切られました。三千院での、身を以て、日台文化の相違を発見した体験を、私は宝物として、胸の中に収めたと思います。いま私は知りました。

文化は見た見ただけでは分からないものであると。文化は、生活することによって始めて生まれてくるものであると。